



第5図
加増野金鉱床周辺地域の鉱床群

廃坑とされ残されているような鉱脈が多い。脈幅は狭小であってもこのような鉱脈には顕著な“ギングロ”や“トジ金”が認められ鉱山師の探鉱意欲を振いたさせたようである。しかしこれらの富鉱部は深部までに達することは稀でその地質環境に相応した浅い位置で貧鉱化し石英方解石緑泥石や粘土鉱物を主とする鉱脈に移行し探鉱や採掘を休止しているものが殆んどで加増野金山における鉱脈も深部まで連続するという可能性は少ないように考えられる。

パターンの北東縁に当り従来から探鉱探鉱の行われたところでもあり金鉱脈が発見されたとしても不思議ではない。

ただ奥山銅鉱床帯と類似の鉱化作用ということになると深部には銅鉱床が発達するということになるが鉱化作用の帯状分布や鉱脈の状況から知りうる限りでは顕著な銅鉱化帯に移行することはあまり期待がもてない。

南伊豆半島に分布する金銀鉱脈は一般に走向延長に対して深部に対して発達するものが少なく平均して200m以下であるものが多く鉱化帯の中心から離れた金銀鉱脈の中には落合鉱脈や運上鉱脈のように露頭部から100m以内に富鉱部がありこれらを採掘した後

金鉱床の調査や開発に対する問題点は金粒が非常に微細で肉眼的に品位の判定をすることが困難なため石英脈中にどの程度の金粒が含まれているかの推定するために随伴鉱物や脈石である石英方解石長石などの含有量や色光沢などを基準としている。しかしこのようなことも一応の目安に過ぎずどのようなものでも金鉱ではないかと疑いをもって分析を行ってみるのが最も重要なポイントになるだろう。

広島甲山金山の例でも大泊金山の例でも最後の決め手は金銀分析値によっておりこれらの分析は各地方通産局分析課造幣局あるいは国や県など責任のある分析所において行うことが必要であると思われる。

地質調査所の出版物

- 地質調査所月報 第29巻 第7号
吉田史郎：滋賀県鈴鹿山脈西麓の鮎河層群
大嶋和雄・池田国昭・山屋政美：石狩湾の海底地形からみた低地帯の地形発達史
(資料) 本島公司訳：炭酸塩岩の石油根源岩の有機地球化学および岩石学上の特長について
- 地質調査所月報 第29巻 第8号
大嶋和雄・横田節哉：北海道石狩湾の堆積物
須藤 茂・玉生志郎：秋田県小又川・玉川上流域の玉川溶結凝灰岩の岩石学的研究(予報)
松久幸敬：Colorado州 Western San Juan 山地の変質作用及び鉱化作用にみられる天水の寄与
柴田 賢：西南日本外帯における第三紀花崗岩貫入の同時性
(資料) 本島公司訳：中国の陸相の石油根源岩に関する若干の基本的地質特性とその形成条件
第132回研究発表会講演要旨

- 地質調査所月報 第29巻 第9号
岸 和男・菅野敏夫・永井 茂：山形県米沢盆地における水理地質
河内洋佑・奥村公男：EPMA による定量分析自動化に関連した諸問題
柴田 賢・山田直利：北海道 奥尻島の花崗閃緑岩の K-Ar 年代
(資料) 岸本文男訳：南嶺の諸広山花崗岩体の多期貫入活動と2・3の地球化学的特徴
第133回研究発表会(西南日本四万十帯とその周辺海域の地質)講演要旨
- 地質調査所月報 第29巻 第10号
藤井敬三・曾我部正敏：北海道における後期中新世から鮮新世にみられる構造運動
尾崎次男：塩化物イオンの濃度変化からみた被圧地下水の塩水化について——静岡県富士地区の例——
原田種成：九州の珪砂資源1
新着資料の紹介
第134回研究発表会講演要旨

石油の集積は先ジュラ紀に期待し得るとしている。なぜなら先ジュラ紀の層準は大規模な断層運動の影響を受けておらず またレバノン近隣諸国の地質から これらの層準は石油貯溜層となり得る多くの頁岩・マールや蒸発岩類を介在しているからとしており 三疊紀に期待をつないでいる。ところが現在までにレバノンでは三疊紀の地層は見付かっておらず 更に深い層序試掘井が望まれている。先ジュラ紀の油田の探鉱の中心は大陸棚と山岳地帯を挙げているが ハッサンによるレバント地方の海成三疊紀—ジュラ紀堆積岩の分布図によれば(第6図)イスラエルでの層厚約3,000mの油田を除きいづれも層厚の薄い地域に油田は見付かっており レバノンでの発見の期待は薄いように見える。なおシリア北東端の油田ルメイランはメソポタミア堆積盆地の北西端にあっている。

中近東地方でもっとも景色がよく水も豊かでもかも貿易・金融の中心として地の利を占めているレバノンは残念ながら石油がでない。天は二物を与えずということだろうか。ベイドン教授達が主張する先ジュラ紀の地層の探査も遠い将来になりそうである。

エピローグ

4月中旬 雨期の終った直後の二週間にわたったレバノンの山歩きは全く素晴らしかった。各時代の遺跡が國中各地にあり地質巡検というよりも観光旅行的色彩が

強かったが ベイルート・アメリカ大学のスタッフの協力で引きしまったものとなった。

1975年以内戦で当分はレバノンの山歩きもできそうにない状況なので「中近東フィールド・ノート」の中にレバノン・エクスカージョンを組み込んでみた。

レバノンの地質の主要文献

BEYDOUN, Z.R., 1977. Petroleum prospects of Lebanon: Reevaluation. A.A.P.G. Bull., vol. 61. p. 43-64.
 DUBERTRET, L., 1955. Carte géologique du Liban an 1: 200,000 avec notice explicative. Beirut, Ministry Public Work. 51 p.
 DUBERTRET, L., director, 1964. Liban, Syrie, in Lexique stratigraphique international, v. 3, Asie, fasc. 10cl. Paris, Centre Natl. Recherche Sci., Internat. Geol. Cong., Comm. Stratig., p. 9-15.
 FREUND, R. et al., 1970. The shear along the Dead Sea rift. Royal Soc. London Philos., Trans., ser. A, vol. 267. p. 107-130.
 RENOUARD, G., 1955. Oil prospects of Lebanon. A.A.P.G. Bull., vol. 39. p. 2125-2169.
 WOLFART, R.W., 1967. Geologie von Syrien und dem Libanon, in Beitrage zur regionalen Geologie der Erde, v. 6. Berlin, Borntraeger, 326 p.

死海地溝帯に関連して

宝来帰一・鎮西清高 1971: 大地溝帯と新しい変動論 一東アフリカから死海まで一。科学 vol. 41 p. 332-345.

- 最近刊行された 地質調査所出版物の ご案内
- 地 質 図
 - 5 万分の 1 地質図幅 地域地質研究報告 「津 幡」
 - 20 万分の 1 地質図幅 「弘 前」
 - 20 万分の 1 地質図幅 「深 浦」
 - 50 万分の 1 地質図幅 「釧 路」
 - 200 万分の 1 日本活断層図
- 海洋地質図
 - No. 9 八戸沖表層堆積図 (20万分の1)
 - No. 10 八戸沖海底地質図 (20万分の1)
 - No. 11 日本海溝 千島海溝南部およびその周辺広域海底地質図(100万分の1)
- 空中磁気図
 - No. 19 「日 高」 (20万分の1)
 - No. 20 「大 雪」 (20万分の1)
- 地質調査所化学分析法 No. 51
- Cruise Report No. 9
 - Investigations of the Continental Margin of Southwest Japan, June—July 1975, GH 75-4 Cruise.
- Cruise Report No. 10
 - Geological Investigations in the Northern Margin of the Okinawa Trough and the Western Margin of the Japan Sea, April—May 1977, GH 77-2 Cruise.
- 地質文献目録 (1956-60) 地域別
- 地質文献目録 (1973)
- 地質調査所月報 第29巻 4号～9号
 - これらの出版物は 地学文献センター(0423) 62-5050 および東京地学協会(03)261-0809 で取り扱っておりますので ご希望の方は直接お申込み下さい。
